

## 第8回三木市学校再編検討会議 要旨

日 時： 令和元年6月25日(火) 午後7時～9時

場 所： 市役所5階 大会議室

出 席 者：

構 成 員 加治佐哲也 兵庫教育大学 学長  
山下 晃一 神戸大学大学院 准教授  
小山内政子 三木市区長協議会連合会 会長  
神澤 廣美 三木市区長協議会連合会 理事  
安福 政明 三木市連合PTA 元会長  
黒井 俊光 三木市連合PTA 元副会長  
前田 信利 平田小学校 校長（小学校校長会）  
野口 博史 緑が丘中学校 校長（中学校校長会）

事 務 局 西本則彦教育長、石田英之教育総務部長、奥村浩哉教育振興部長、坂田直裕学校教育課長、鍋島健一副課長、  
山本智康主査、小柳陽主査

傍聴人の数： 18名

### 1 開会、会長あいさつ

令和元年度第2回三木市の学校再編検討会議を行う。通算では第8回になる。今日はこれまでのまとめになる。昨年度の8月から三木市の各地域においてご意見をお伺いしてきた。特に喫緊の課題である3中学校区については、2回にわたり、保護者及び地域代表の方に学校再編検討会議に出席いただき、それぞれの声を直接お伺いした。本日はこれまでに伺ったご意見を十分に考慮しながら、学校の状況、地域の状況、児童生徒数等を総合的に判断し、統合や再編に係る提言案を決めていきたいと考えている。

### 2 会長提案

#### 【志染中学校の統合】

ア 統合校 志染中学校は、緑が丘中学校と統合する。

○ 統合校として緑が丘中学校と自由が丘中学校のいずれにするか、保護者や地域の方の意見は統一されていないが、緑が丘中学校は、地理的に東西に長い志染地区のほぼ中間点に位置することから、統合校は緑が丘中学校とする。

○ 志染地区の方の生活圏は、自由が丘よりも緑が丘、青山との意見があった。

イ 統合時期 志染中学校と緑が丘中学校との統合は、令和3年度に行う。

○ 一定の準備期間は必要であるが、生徒数減少が顕著であり、早急な対応を要する。

### 【星陽中学校の統合】

- ア 統合校 星陽中学校は、「細川地区は三木中学校」、「口吉川地区は吉川中学校」とそれぞれ統合する。
- 細川地区は、保護者、地域ともに、三木中学校との統合を望んでいる。
  - 口吉川地区は、統合校として三木中学校と吉川中学校のいずれにするか、保護者や地域の方の意見は統一されていないが、地域が隣接し、地域性が似通っているため、統合校は吉川中学校とする。
- イ 統合時期 星陽中学校と三木中学校（細川地区）及び吉川中学校（口吉川地区）との統合は、令和4年度に行う。
- 三木中学校及び吉川中学校との統合準備を進めるため、一定の準備期間を要する。

### 【吉川4小学校の統合】

- ア 統合校 吉川の4小学校は、みなぎ台小学校に集約し、統合する。  
児童数、教室数、建築年度等を勘案し、みなぎ台小学校に他の3小学校を集約する。
- イ 統合時期
- 中吉川小学校：令和3年度  
一定の準備期間は必要であるが、早急な対応を要する。
  - 上吉川小学校：令和3年度  
複式学級が進んでおり、早急な統合を実施する必要がある。
  - 東吉川小学校：保護者や地域の方のご意見をお聴きしながら、令和4年度以降に統合する。

## 3 協議

### （副会長）

第1回から考えるとここまで至ったのは感慨深い。3つの中学校区について考える必要があった。1学年当たりで10数名しかいない中学校がある。小規模の良さもあるが、もう少し多様な世界に触れるために、このような統合の形になって良かった。

我々としては子どもの力を信じて、私たち大人ができることは何かを考えたものとして、この提言案を受け止めていきたいと思う。

### （委員）

地域の方からのいろいろな思いを踏まえた上で、いただいたご意見を最大限考慮した提言案だと思う。

地域の方のご意見の中に「吸収ではなく、人数の差はあるが、対等な立場で一緒になって学校を作っていくべき」というものがあった。提言案では、中吉

川小、上吉川小、みなぎ台小がはじめに3校統合し、その後に東吉川小が統合していくことになっている。

3つの同じような規模の小学校を統合し、その後に小さな1つの学校を統合するよりは、一度に4つの学校を統合する方が良いのではないか。

星陽中（口吉川小校区）と吉川中が統合するので、最終的には5つの小学校が一つになって、いずれ義務教育学校になる。それならば、この段階で口吉川小も一緒に1つになるという案もあるのではないかと感じた。

（委員）

志染地区の生活圏は自由が丘よりも緑が丘、青山との意見があったが、みんなが緑が丘方面というわけではない。

また、統合の時期を令和3年としているが、統合先が決まったので、準備期間中に個々の判断で緑が丘の学校に通いたいという希望が出てきたときに対応できるのか。

（事務局）

基本的には住居地によって通う学校が決まる「校区制」があるので、個々の判断であらかじめ学校を替わることは考えられない。

（委員）

吉川の4小学校について、東吉川小が令和4年以降に統合ということになっているが、子ども達は、「こども園」で一度集まって、小学校段階で東吉川小だけが離れる、中学校ではまた集まるというのは、子ども達のことを思うとどうかと思う。

（会長）

少しでも長く東吉川小を置いてほしいという希望が寄せられた。統合を令和4年度以降ということにしているが、そういう事を感じられる方が多くなれば、統合の時期もよく考えなければならない。

（委員）

提言案全体については、これまでの経緯から、このあたりが妥当なところなのかと思う。東吉川小が1つ遅れるというのはどうなのか。ただ地域の方の意見からしたら仕方がないだろう。子ども達はすぐ馴染むだろうというのが私の意見だ。

（委員）

吉川の4小学校は修学旅行、自然学校をはじめ、様々な行事を合同で行っている。令和3年度に3小学校が統合し、少し大きくなった小学校に東吉川小だけが交流しにいくというようになってしまうことが懸念される。地域の中の説明会で、そういうデメリット的な部分をお示ししていただく方がいいのではないかと思う。

（委員）

子どものことを考えたら一緒に統合する方がいいと思う。

（副会長）

仮に、あまり三木のことを考えないという前提で発言すると、1つのケースとして実験が行われるというイメージがある。はじめに3校統合し、後から1校が統合したら何が起こるかというのは研究に値する。子どもにデメリットがあるように申し訳ないので、言いにくいですが、それくらいの側面があるというのはお知りおきいただきたい。

小学校区ごとの考え方を尊重しても良いという考え方もあるが、委員の皆さんからの懸念が多かったので、今後も検討は続けていくことが必要だろう。地域の方の意見をいただいた上で作った提言案なので、書き直すことは困難だが、今頂いた意見は、資料に別添として示しても良いかもしれない。

(会長)

提言は提言として示すとして、注意事項や留意事項として、先ほどの懸念については示すべきだと思う。

提言書の様式について事務局の考えを聞きたい。

(事務局)

先進他市町の提言等を見ると、冊子風のものもあれば、今回のような1枚ものというものもある。今後、事務局、会長、副会長と協議しながら、どういう形がいいのか検討を進めていきたいと思う。

(委員)

提言案について、各地域で丁寧な説明をすれば、保護者の方には賛同していただける。保護者や地域の皆さん自身、どうしたらいいか分からないという方が多いと思う。その不安な気持ちをいかに減らして差し上げるかは皆さんの対応が一番大事だと思う。

実際には、ずっと馴染んでいける子の方が多いと思う。今は、引越ししてきたばかりの子どもさんでも挨拶や声をかけてくれる。もちろん、すごく神経質なお子さんもいるので親御さんは不安だろう。統合をする時に100パーセント賛成ということはないと思うので、説明会では、親御さんに納得していただけるような分かり易い説明をしていただけたらと思う。

(会長)

統合となると生活が変わるので、子どもたちの心のケアなどの準備をしっかり行う必要がある。事務局から統合準備と心のケアについて説明を願う。

#### 4 事務局説明

##### (1) 統合準備委員会の設置

- ① 校区ごとに統合準備委員会を設置する。
- ② 委員構成は、学校代表者、保護者代表者、地域代表者、市教委
- ③ 業務内容は、総務、学校教育、PTA、通学地域に分けて行う。

##### (2) 児童生徒の交流事業

- ① 中学校の活動例

- ・ 学校行事への相互参加
- ・ 部活動の合同練習
- ・ 1日学校体験
- ・ 生徒会役員の相互交流
- ・ 同日程によるスキー実習 等

#### ② 小学校の活動例

- ・ 学校行事への相互参加
- ・ 1日学校体験
- ・ 合同遠足
- ・ 同日程による自然学校、修学旅行
- ・ 相互の学習交流 等

### (3) 心のケア対策

#### ① 教職員の配置

- ・ 心のケア担当（仮称）の配置
- ・ 統合前の学校や子どもたちの様子を知る教員の配置
- ・ スクールカウンセラーの配置日数の増加
- ・ 不登校対策指導員の派遣

#### ② 学校生活上の支援

- ・ 情報共有（統合前後の学校生活状況、通学の状況など）
- ・ アンケートの実施
- ・ カウンセリングウィークの実施
- ・ スクールカウンセラーによるカウンセリングの強化

### (4) 通学方法

#### ① 国の通学方法の基準

徒歩や自転車による通学距離としては、小学校で4 km 以内、中学校で6 km 以内という基準をおおよその目安としている。

（「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」：文部科学省）

#### ② 統合に際しての三木市の通学方法に対する考え方

- 小学校 4 km 未満は徒歩  
4 km 以上は通学バス
- 中学校 6 km 未満は徒歩又は自転車  
（自転車通学の基準は、各校で定める。）  
6 km 以上は通学バス又は自転車

#### ③ 通学方法について考慮すること

- 通学距離については、国の基準に準じる。ただし、通学時間、通学路の安全等を考慮し、通学方法を決定する。
- 児童生徒の通学方法については、自治会単位で同じ扱いを行うの

が望ましいため、通学距離が国の基準を超えている児童生徒が自治会内にいる場合は、原則として、同一自治会の児童生徒を同じ通学方法とする。

#### ④ 通学バスについて

通学距離が上記に示す国の基準を超えている場合は、通学バスによる通学を検討する。

#### 【便数】

- 小学校：登校 1 便、下校 2 便
- 中学校：登校 2 便、下校 2 便

#### ⑤ ルート

- 校区ごとに、乗車人数や通学時間を考慮し、ルート数を定める。
- 校区ごとに、数か所の停留所を定め、乗降車する。

#### ⑥ その他

- 運行は平日のみとし、休日や長期休業期間は運行しない。ただし、休業日に全校行事がある場合は運行する。
- 路線バスやコミュニティバス等の改編があった場合は、通学方法の見直しを行う場合がある。

## 5 協議

### (委員)

バスの件だが、長期休業中等は難しいと思うので、自転車での通学ということ

も並行して考えていかないといけない。以前、市教委の方で実際に自転車で試走したという話があったが、どのような様子か聞きたい。

### (事務局)

緑が丘中学校の例で言うと、職員が実際に戸田地区や三津田地区から自転車に乗ってみた。中学生を想定しながら、安全な道を考え、坂道は自転車を押しながらゆっくり走行し、戸田地区から 36 分だった。概ね 40 分程度あったら、もう少し奥からでも緑が丘中学校に到着できると考える。ただし、36 分かかるとしているエリアは、バス通学を想定している。

地域部会等では、バス通学のエリアに住んでいたとしても、自転車の方が便利なので、自転車通学を認めてもらえないかというご意見があった。今後そういう意見が出れば、柔軟に対応できると考えている。

### (副会長)

心のケア対策の「カウンセリングウィークの実施」はとても良いと思う。他の地域の中学校で「ハートフルウィーク」と称し、校内のどの先生にでも気軽に話かけようという試みをしている。カウンセリングというと緊張する子もいると思うが、その取組では、何でも話ができる。統合の話ではなくても、

交流する中で、相手校の先生とも話ができるというのは良いかと思う。

(委員)

通学バスについて、小学校が登校1便、下校2便となっているが、同じルートを2回行くのか、それとも2台出すのか。

(事務局)

遠い所からでもバスで片道30分ほどで行けると思うので、同じバスを2回転させるというのが基本である。

(委員)

小学校の行事等によっては、登校に時間差が必要となるが、1台で2回転出来るのであれば、そういう対応も可能かと思う。

(会長)

事前に走行テストをしてみないといけない。

(委員)

中学校の場合は小学校と違って、人間関係は部活動の繋がりが強い。他校の生徒であったとしても、部活の試合等で会っていたら本当に仲良くなっている。そういう意味で児童生徒の交流事業についてだが、部活動の交流が一番やり易いのかと思う。いざ方向性が決まれば、どんどん前倒しで交流を進めていけば良いと思う。そういった時に、合同練習をする時の交通上の手段があれば良いと思う。

(委員)

統合準備委員会のことだが、10月ぐらいから1年くらい統合の準備をしていくとなるとPTAもがんばらないといけない。行事も次々と行っていくので、できるだけ早い段階からスタートできれば良い。

(会長)

教職員の配置で心のケア担当のイメージはどういうものか。カウンセラーを配置するという事か。

(事務局)

心のケア担当自体は、教職員をイメージしている。

(委員)

心のケア担当と聞いた時に阪神淡路大震災後の心のケア担当をイメージしたが、これの考え方だと加配のイメージか。

(事務局)

心のケア担当の配置については、県教育委員会の所管事項なので、市の教育委員会と県の教育委員会で連携しながら進めていきたい。

(会長)

制度として、統合した時に特別に加配措置というのはあるのか。

(事務局)

統合した場合は2年間にわたって統合加配が付く。人数については、今現在すでに配置されている加配教員との調整が行われるので、何名ということ

は言えないが、統合加配の枠を利用して心のケアやその他の加配を考えていきたいと思う。

(委員)

中学校では部活動の意味合いがすごく大きい。星陽中と吉川中では星陽中にある部活動は吉川中にあるのか。現時点で活動している子ども達が統合されて吉川中に行った時に、そこでそのまま活動が続けられるのか。早目に見通しをもてるように準備はしないといけないと思う。

## 6 三木市立学校の将来像（全体案）について

(会長)

小中一貫教育の方向性を示しているわけだが、小中一貫校の方向性は間違いない。国もこの方向を政策の柱としている。三木市の場合は施設一体型の学校の設置を目指している。設置の在り方、教育内容等について研究を進めていかないといけない。

(副会長)

三木の場合は小中連携教育の蓄積があるので、無理に新しいことをするよりも今までの蓄積を踏まえて、十分に活用するという観点でやっていただけたらいいと思う。広島県に安芸高田市があるが、小中一貫教育ですごく成果が上がったという報告もある。この近辺でも一足先に進んでいる加東市など、先進地域との情報交換をしながら進めていただけたらと思う。

(委員)

三木市では義務教育学校を視野に入れた目標を立てているが、具体的な案がお示しめしできなかつたので、当初の計画よりも遅れ気味になっている。タイムスケジュールについて総合教育会議や市教委の事務局内での協議が行われると思うが、ある程度の「見える化」できる提案を基に進めていく必要がある。

会長からも話があったが、加東市は3年単位で1つずつの小中一貫校ができていくという形にしている。3年ごとの日程が組まれており、地域の方への説明不足で大変だったという話もあるが、三木市はここに来るまでも丁寧に意見聴取をされてきている。その姿勢は変わらないと思うが、ある程度先を見通した形で進めていくのが良いと考えている。

(会長)

全体の将来像がまだ抽象的なレベルである。三木市の学校再編のイメージは出ているが、具体的に進められているわけではない。そういう検討をできるだけ早くしていかないと今後も遅れるという懸念は確かにある。

(事務局)

小中一貫校が目標であるとしているが、学校をつくることが目的ではなく、小中一貫教育の良さを活かせる学校づくりをしたいという思いだ。先進校を視察している中で、「どれくらいの規模の学校が学校経営上良いのか」「どの

ような教育内容が有効なのか」「どのように小中一貫教育の導入を進めていくべきか」ということを学校長に質問している。その中では、学校規模をよく考えて設置する必要があると指摘がある。小中一貫教育に適した学校規模を念頭に、いつごろに学校を設置するのがいいかを考えて再編を進めたい。

(会長)

義務教育学校だと教職員は、小中両方の免許が必要になるが、そのことはどう考えているのか。

(事務局)

昨年度のデータだが、小学校の教員で中学校の免許を持つてる教員が55%程度、逆に中学校の教員が小学校の免許を持つてる教員が20数パーセントという実態である。新聞を見ても、国の方でも免許制度を検討していくということも記事として出ている。その辺も見ながら、どのように進めるか検討していきたい。

(会長)

国の方でも、教員免許をどうするかは大きな検討課題である。これまでの免許の取得の体系が、幼小をセットとする場合又は中高をセットとする場合は免許が取りやすい。ところが小中をセットにして取るのは難しい。幼小というのは子どもの生活全部の面倒をみるという考え方で、中高は教科の専門性を重視するという考え方であり、その辺は基本的に違うので全く別物として扱われてきた。現実には小中一貫校という形が進んできているので、免許も小中の両方の免許を取りやすくする方が良い。もっと進むと小中両方に通用する免許を新たに作る方向にいくかとも思う。

小学校の教科担任制も入ってきているが、一層拡充されるだろう。5、6年生全体が教科担任制になる可能性もある。そうすると全く先生の配置も変わってくるし、免許も当然変わってくる。小学校の先生も必ず中学校の何らかの教科の免許を持たないと厳しくなってくるし、配置も難しくなってくる。

(委員)

今は喫緊の課題として統合に取り組んでいるが、これが一旦落ち着いてしまうと、10~20年先の全体像の取組については、みんな忘れてしまっているかもしれない。将来像を共有し、取組の目標や計画を立て、行動していくことが大切である。取組の過程では、地域と密に連絡を取りながら、繰り返し繰り返し話をしていくことで、初めてわだかまりがない状態になる。また、5つの学校を設置していく際には、できるだけ「見える化」して進めて欲しい。

(会長)

スケジュールの中にある跡地利活用は、どこでどのように進めるのか。

(事務局)

教育委員会だけで進められないので、市長部局と連携をとりながら、今後方向性も含めて進めて行く。先も見えないところから着手することはできな

いので、ある一定の目途が立った時点で検討に入らせていただきたい。

## 7 会長のまとめ

今回の提言案について賛同されるとしても、この中に収まりきれないこともある。また、進めて行くと問題も出てくる。そのような課題も記述として加えていくような提言の作り方が望ましいと思う。委員の皆さんから意見が出ているので、意見を反映させるような記述を加えたい。

方向が示された後に、統合を具体化していくわけだが、準備の進め方、心のケア等々については丁寧な説明が必要である。事務局は正式な提言の前に、各地域で保護者や住民の方に説明されるそうなので、より丁寧な説明をしていただければと思う。

## 8 閉会 副会長挨拶

「50年後の日本、50年後の三木はどうなってるんでしょうね。我々は子ども達に何が残せるんでしょうか」ということを会議が始まる前に聞かれた。そのような意見が地元の方から出てくることはすばらしい、こういう地域は捨てたものじゃないなと思った。

子ども達には、いろいろな大人と出会う機会を保障していくことが大事だと思う。地域で子どもを育てるのはとても大事なことで、住んでいる地域がベースになって、周りのおじいちゃん、おばあちゃんにいろんな声かけをしてもらって育っていくべきだが、地域に子どもを囲っておくわけではなく、そこをベースとして、将来への道が外に広がっていけばいいと思う。

オール三木として、出会うべき友達や大人がいるわけなので、多様な出会いを保障していくことが、学校再編をきっかけに起こっていけば嬉しい。

ちなみに先ほどの会話にどういう答えを出したかと言うと、50年後にインフラや高速道路、様々な建物もどうなっているか分からない。人口減で税収が減り公共的に手立てができるか分からない。50年先を考えると暗い話ばかりになってくる。移民が増え、もっと多様な出会いをしないといけなくなる。移民も労働力となるが、これもどこまで続くかわからない。そう考えた時に、そういう時代を切り抜けていける力が子ども達には必要だと考える。今回我々は、学校再編で知恵をしばって考えたが、50年先の人に顔向け出来るかわからない。これらの問題は、大人として責任を持って考え続けたいといけない問題だと思う。